

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。

「人のいるところには夢がいる」2026年には創業50周年を迎えるジャパン・アーツの理念です。

どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、

人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに

掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

今年も引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いします。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆

<年間サポート>

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 M.I. 岩村 和央 上村 憲裕 K.O. 大原 志津子 片山 由美子 K.K. 北村 眞
新貝 康司 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎 東條 Lilly 苜米地 英人 K.N.
児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 樋口 美枝子 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子
松尾 芳樹 真野 美千代 安田 牧子
(匿名希望 8名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社 青林堂 三井住友カード株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きつぎアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

<ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

K.I. K.K. Y.K. Rimiko T.H. 細沼 康子 M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 ロロコミ
(匿名希望 7名)

<ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

江田 明子 K.K. Rimiko M.T. 平山 美由紀 細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子 ロロコミ
(匿名希望 7名)

<千住真理子に「花を贈ろう!」プロジェクト>

石坂 雅美 北村 眞 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 宍倉 剛 田中 治郎
H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子
(匿名希望 7名)

2025年5月19日現在 敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)

檜本大進
<プレミアム室内楽シリーズ>
vol.4



2025年6月7日(土) 19:00開演 サントリーホール
7:00p.m. Saturday, June 7, 2025 at Suntory Hall

主催：ジャパン・アーツ

協力：ソニー・ミュージック ジャパン インターナショナル

株式会社東京エムプラス

モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 K.380

W. A. Mozart: Violin Sonata in E-flat major, K.380

第1楽章: アレグロ	1st Mov.: Allegro
第2楽章: アンダンテ・コン・モート	2nd Mov.: Andante con moto
第3楽章: ロンドー、アレグロ	3rd Mov.: Rondeau. Allegro

グリーグ: ヴァイオリン・ソナタ第3番 ハ短調 Op.45

E. Grieg: Violin Sonata No.3 in C minor, Op.45

第1楽章: アレグロ・モルト・エンド・アパッショナート	1st Mov.: Allegro molto ed appassionato
第2楽章: アレグレット・エスプレッシーヴォ・アラ・ロマンツァ	2nd Mov.: Allegretto espressivo alla romanza
第3楽章: アレグロ・アニマーテ	3rd Mov.: Allegro animato

* * * * *

ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第9番 イ長調 Op.47「クロイツェル」

L.v. Beethoven: Violin Sonata No.9 in A major, Op. 47 "Kreutzer"

第1楽章: アダージョ・ソステヌート – プレスト	1st Mov.: Adagio sostenuto – Presto
第2楽章: アンダンテ・コン・ヴァリアツィオーネ	2nd Mov.: Andante con variazioni
第3楽章: プレスト	3rd Mov.: Presto

学生サポートパートナー

【学生サポートパートナー】は、パートナー企業にチケット代の一部をご負担いただき、学生の皆さんがクラシック音楽に触れる機会を増やす取り組みです。

<パートナー企業> 株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

檜本大進&アレッシオ・パックス 日本公演

6月4日(水)	香川	レクザムホール(香川県県民ホール)	主催:香川県県民ホール指定管理者 あなぶき文化振興コンソーシアム
6月6日(金)	長野	八ヶ岳高原音楽堂	主催:八ヶ岳高原ロッジ
6月7日(土)	東京	サントリーホール	主催:ジャパン・アーツ
6月9日(月)	静岡	アクティシティ浜松 中ホール	主催:(公財)浜松市文化振興財団
6月10日(火)	大阪	住友生命いずみホール	主催:住友生命いずみホール[(一財)住友生命福祉文化財団]



© Junichiro Matsuo

檜本 大進 (ヴァイオリン)

Daishin Kashimoto, Violin

ロンドン生まれ。1990年、第4回バッハ・ジュニア音楽コンクールでの第1位を皮切りに、1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーの両国際音楽コンクールでの第1位など、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。

3歳よりヴァイオリンを恵藤久美子に学ぶ。5歳でNYに転居し、7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、田中直子に師事。11歳の時、名教授ザハール・ブロンに招かれリユーベックに留学。20歳よりフライブルク音楽院でライナー・クスマウルに師事、グスタフ・シェック賞を受賞し修士課程を修了した。

これまで、ロリン・マゼール、小澤征爾、マリス・ヤンソンス、チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィなどの著名指揮者のもと、国内外のオーケストラと共演を重ねるほか、室内楽にも意欲的に取り組み、マルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシメット、ミッシェル・マイスキー、エマニュエル・バユ、ポール・メイエなどの著名ソリストと共演。

2007年より、自身が音楽監督となって兵庫県赤穂市・姫路市を舞台に室内楽の国際音楽祭「ル・ポン(Le Pont)」を開始。フランス語で「架け橋」の意を持つ名前を冠した本音楽祭は、檜本の声かけで世界一流の音楽家が毎秋参加し話題を呼んでいる。

2010年、日本人として史上2人目のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターに正式就任。オーケストラの顔として活動しているほか、本拠地ベルリンでの定期演奏会やヨーロッパ、アジア・ツアーでの演奏会などでソリストとしても共演している。

2023年、細川俊夫より捧げられた委嘱新作:ヴァイオリン協奏曲《祈る人》を、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と世界初演し、同年夏にセバスティアン・ヴァイグレ指揮読売日本交響楽団と日本初演を行った。

主なCDは、2014年にワーナー・クラシックスから世界リリースもされた、コンスタンチン・リフシツとの「ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ全集」など。

1995年アリオン音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエイター部門、2017年姫路市芸術文化大賞、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。2019年12月より、HiFiオーディオ製品ブランド「VELVET SOUND」(旭化成エレクトロニクス)公式アンバサダー。

使用楽器は、株式会社クリスコ(志村晶代表取締役)から貸与された1744年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。



Daishin Kashimoto



© Marco Borggreve

アレッシオ・バックス (ピアノ)

Alessio Bax, Piano

イタリア・バーリに生まれる。8歳でピアノを始め、14歳でバーリ音楽院を首席卒業。16歳でアメリカ・ダラスの南メソジスト大学に入学し、巨匠ホアキン・アチュカロに師事、ピアノ演奏コースで音楽修士号を取得。

1997年第3回浜松国際ピアノ・コンクール、2000年リーズ国際ピアノ・コンクールで優勝。2009年エイヴリー・フィッシャー・キャリア・グラント、13年にはアンドリュウ・ウルフ室内楽賞および、新進アーティストとしてリンカーン・センター

賞を受賞。

ソリストとして、これまでにロンドン・フィル、ロイヤル・フィル、ニューヨーク・フィル、ボストン響、サンクトペテルブルク・フィル、シドニー響、N響、読響、東響を含む175以上のオーケストラ、マリン・オルソップ、サー・アンドルー・デイヴィス、ハンス・リントウ、ファビオ・ルイーダ、サー・サイモン・ラトル、ユーリ・テミルカーノフ、ヤープ・ヴァン・ズヴェーデンをはじめとする指揮者と共演。

優れた室内楽奏者としても知られ、リサ・バティアシュヴィリ、ジョシュア・ベル、ジェイムズ・エーネス、樫本大進、ヴィルデ・フランク、タベア・ツインマーマン、ステイーヴン・イッサーリス、ジャン＝ギャン・ケラス、エマニュエル・パユ、フランソワ・ルルー、セルゲイ・ナカリヤコフ、イアン・ボストリッジを含むトップ・アーティストと共演。

2017年よりイタリア・トスカーナ州のオルチャ渓谷地帯で行われる夏の音楽祭「シエナでの出会い」の芸術監督を務めるほか、シアトル、アスペン、タンゲルウッド、サロン・ド・プロヴァンス、ヴェルビエ、ラヴィニア、赤穂・姫路(ル・ポン)などの国際音楽祭に招かれ出演している。

これまでに「バッハ・トランスクリプト」、「ラフマニノフ：前奏曲集&メロディーズ」、「ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番」、「イタリアン・インスピレーション」、「スクリャービン&ムソルグスキー」、愛娘に贈ったアルバム「ミラのための子守歌 ～ ピアノのための小品集」、「忘れられた舞曲集」、ルシール・チャンとの共演による「ドビュッシー&ラヴェル：ピアノ・デュオのための作品集」などのCDをリリース。その多くが様々なメディアによる推薦版盤に選ばれている。

2019年よりボストンのニューイングランド音楽院で後進の指導に当たるほか、新進ピアニストの活動をサポートするホアキン・アチュカロ財団の共同芸術監督を務めている。ニューヨーク在住。



Alessio Bax

柴田克彦 (音楽評論家)

Katsuhiko Shibata

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 K.380

古典派の天才ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)は、ザルツブルク在住時の1777年9月から79年1月にかけて、求職を主目的とするマンハイム・パリ旅行を行った。その途上でドレスデンの宮廷楽長シュースターのヴァイオリン・ソナタ集を知った彼は、両楽器が対等な構成に刺激を受けて、同種の本格作の創作を開始した。そして旅行中に7曲を完成。その内K.301～306の6曲はパリで出版された。

1779年にザルツブルクへ戻ったモーツァルトは、翌1780年11月、歌劇「イドメネオ」初演のためミュンヘンへ行き、1781年3月、その足でザルツブルク大司教の命によりウィーンへ赴いた。4月8日、大司教の父の館で同郷のヴァイオリニスト、ブルネッティと共演。5月以降は当地に定住した。そしてこの頃に書かれたK.376～380とK.296の6曲のヴァイオリン・ソナタは、弟子のアウエルンハンマー嬢に献呈され、ウィーン移住後最初の出版作品となった。なお何れも6曲セットであるのは、当時の出版時の慣例に従ったもの。

本作は、その通称「アウエルンハンマー・ソナタ」の第6曲。前記のブルネッティとの共演のため、公演前日=1781年4月7日に作曲されとみなされている(以前はK.379が該当作とみられていた)。ならばウィーンでの最初の作品ということになる。曲は平明で安定した急・緩・急の3楽章構成。曲想は全体に華やかで明るい、感傷的な第2楽章が美しい対照をなしており、初演時にモーツァルトが自らピアノを弾いたためか、同パートの協奏的な性格が強調されてもいる。

第1楽章：アレグロ。力強い和音と細かい動きからなる第1主題と流麗な第2主題に、複数の新主題が加わっていく明朗な楽章。

第2楽章：アンダンテ・コン・モート。ト短調の穏やかな緩徐楽章。悲歌風の主題が歌い交わされる。

第3楽章：ロンドー、アレグロ。6/8拍子の「狩」のリズムによるフィナーレ。軽快な主要主題に2つの副主題が挟まれる。

グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ第3番 ハ短調 Op.45

ノルウェー国民主義音楽を代表するエドヴァルド・グリーグ(1843-1907)は、3曲のヴァイオリン・ソナタを残している。その内第1番と第2番は1865年と67年という初期の作で演奏機会も少ないが、約20年後の円熟期に作られたこの第3番は名品の誉れ高く、演奏される機会も断然多い。1885年から暮らすトルドハウゲンの家を訪れた20歳のイタリア人女流奏者トゥアに触発されて書かれ、1887年に完成。同年ライプツィヒにて、ロシア人奏者プロズキー(チャイコフスキーの協奏曲の初演者として有名)と作曲者のピアノにより初演された。

曲は、ノルウェー舞曲風の旋律が醸し出す民族色、豊かなリリズム、漲る熱気が融合した音楽。翌年に書かれたブラームスの第3番と共に、ロマン派ソナタの最後を飾る傑作とも賞されている。純粋な緩徐楽章が置かれていない点も特徴的だ。

第1楽章：アレグロ・モルト・エド・アパッショナート。躍動的な第1主題、抒情的な第2主題、高音域による澄んだ第3主題を主体に進行。情熱と清冽さが交錯する。

第2楽章：アレグレット・エスプレッシヴォ・アラ・ロマンツァ。美しい主題が流れゆくホ長調の楽章。民族舞曲風の音楽が高揚するアレグロ・モルトの中間部が挟まれる。

第3楽章：アレグロ・アニマート。軽快な舞曲風の第1主題と歌謡的な第2主題を軸に進み、輝かしい終結を迎える。

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第9番 イ長調 O.47 「クロイツェル」

ウィーン古典派の巨匠ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)は、1798年の最初のヴァイオリン・ソナタから僅か5年ほどで、両楽器が対等に並ぶ“二重奏ソナタ”のスタイルを確立し、ロマン派以降の方向性を決定付けた。本作は彼が残した10曲の同ソナタのみならず、同ジャンルの最高峰に位置する名作だ。

1803年、アフリカ系とポーランド系のルーツを持つ英国の名ヴァイオリニスト、ジョージ・ブリッジタワーがウィーンで行う演奏会のために作曲された。同年、作曲者のピアノと共に初演されたが、直後に2人は原因不明の仲違い(ある少女をめぐる意見の対立との説もある)をし、気が変わったベートーヴェンは、ウィーンのフランス大使館に駐在中のバリの名手ロドルフ・クロイツェル(1766-1831)に献呈。彼はこれを1度も弾かなかったにもかかわらず、歴史に名を残すこととなった。

曲は、ベートーヴェン自ら楽譜の扉に記した如く「ほとんど協奏曲のように、きわめて協奏的な様式」をもち、両楽器がスリリングな競演を繰り広げる。作曲時期が接近した「英雄」交響曲と、新たな世界へ向かう意欲や推進力など共通する面も多く、劇的緊張感と迫力は比類がない。また第1楽章に初めて序奏が置かれ、無伴奏のヴァイオリン・ソロで始まる点も斬新だ。なお第3楽章は、前年にソナタ第6番の終楽章として書かれた音楽の転用だが、全曲の統一性も見事に図られている。

第1楽章：アダージョ・ソステヌート・プレスト。たっぷりとした序奏から、短調で書かれた異例の主部へ移行。切迫したスタッカート第1主題、若干柔和な第2主題に、攻撃的な第3の主題が 加わり、転調を駆使した緊迫感溢れる音楽が展開される。

第2楽章：アンダンテ・コン・ヴァリアツィオーニ。ヘ長調の伸びやかな主題と4つの変奏とコーダ。第1変奏はピアノ、第2変奏はヴァイオリンを中心に進行し、短調の第3変奏、華やかな第4変奏を経て、しみじみとしたコーダに至る。

第3楽章：プレスト。イタリアの民族舞曲タランテラ風のリズムが特徴的な2つの主題を軸に、躍動的な疾走を続ける。